

Vol. 25
(2008年秋・冬)

世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

「夏の親子教室」を開催

8月2日(土)、コープこころへ生活文化センターで、親子での参加も含め、37名が講義やワークショップを通じて、世界の子どもたちの現状を、主に「水」をテーマに学びました。

ユニセフ活動の話や
世界の子どもたちの話を聞いて...



安全な飲み水を手に入れるのに
とても苦労している子が沢山いる...
...などを話しあいました。



講義のあとは「水」についての
ワークショップ!



住吉川まで出掛けました。



親子で水汲みを体験!



重た〜い...? 水汲み労働を痛感!



世界の珍しい
コインの仕分にも挑戦



地球上にある水がこのペットボトル1本だとすると、
私たちが飲める水はたったどれくらい? グル
ープで話し合い「これくらい」と思うところに線を入
れました。



活発な意見が交わされた、ワークショップ「コーヒーカップの向こう側」



フリートークで大いに語り合う
(交流タイム)

私にできること
考えてみよう

「ユニセフ7支部合同セミナー」開催 支部のつながりをさらに深める

日本ユニセフ協会の中で、西日本（関西、中国、四国）を中心とした7支部（大阪、奈良、岡山、広島、愛媛、香川、兵庫）が参加する「ユニセフ7支部ネットワーク」。昨年からはじめた合同セミナーを、今年度は7月19日、コープこうべ生活文化センターで開催。「私にできること 考えてみよう」をテーマにそれぞれの支部から60人を超えるボランティアが参加しました。

スタートは兵庫県支部ボランティア井口正子さんによる「ユニセフの基礎」のミニ学習。学校や企業で学習会を開催するときの学習メニューを紹介。子どもの権利条約から生存、健康、教育、保護および参加の4つの権利を、ユニセフ手帳の中から6つの役割や募金活動について説明しました。ユニセフは子どもたちの生活を支え、自立を支援している国際機関であることを再認識。ユニセフ活動初心者だけでなく、長く活動が続けている方にとっても、知っているけれどももう一度おさらいしたい内容のお話でした。



「ユニセフ活動報告 ～カンボジア視察～」

カンボジアシルクのストールや民族衣装をまとった安達洋さん（大阪）山田靖子さん（香川）杉山三千さん（兵庫）



の3人が現れると、会場から「きれいなえ」「すてきなえ」の声。3人は今年3月に「ユニセフ・カンボジアスタディツアー」でカンボジアを訪問。カンボジアの内戦から復興の歴史背景にふれながら、「保健」「子どもの保護」「地雷教育」について報告。特にカンボジアでは8割の家にトイレがなく、普及率がアジアでは最低ということ、そして今もなお600万個もの地雷が埋まっているだろうという話にも、参加者たちは大きな衝撃を受けました。くわしくは、ユニセフ兵庫ニュースWish 24号「ユニセフ・カンボジアスタディツアー報告」にて）

「国際人権法を学ぶ」

また、「国際人権法を学ぶ」をテーマに、帝塚山大学末吉洋文准教授による講義もありました。今年度は1948年12月10日、国際連合で世界人権宣言が採択されてから60年。第二次世界大戦で起こった悲劇を二度と繰り返さないという反省から、人権が「世界における自由、正義、および平和の基礎である」（世界人権宣言前文より）ということを確認しています。現在の国際人権条約は、世界人権宣言がめざす社会を実現するためのもの。末吉先生には、世界人権宣言、人権条約の審査監督、日本の立場などを踏まえて、私たちにできるこ

とを話していただきました。わずか30分の講義でしたが初心者にもわかりやすく、もっとくわしく聞いてみたい講義でした。

世界人権宣言 第1条とは・・・
すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

「参加者交流コーヒータイム」

さてここで「参加者交流コーヒータイム」を。今回のセミナーの目的の一つは、各地域でユニセフ活動を進めている仲間が集い、それぞれの違った活動を知るなかで情報交換や交流を深めるというもの。参加者を8つのグループにわけ、愛媛県支部山高善美さんの司会で活動の中でのキーワード探しをしました。お茶を飲みながら語り合いながら、「ボランティアとしての心構え」、「たくさんの方の出会いが喜び」、「継続してサポートしていくことの重要性」など、それぞれのテーブルで地域を越えた熱い思いが語られました。

交流タイム



ワークショップ「コーヒーカップの向こう側」

そして最後はワークショップ「コーヒーカップの向こう側」。広島県支部・山本真左美さん、岡山県支部・守谷征謙さん、片岡雅子さんをファシリテーターにワークショップを体験しました。



ワークショップの感想・意見

働いても働いても貧しくなっていく人がいるという現実を知った。フェアトレードについて少し学ぶことができた。毎日飲んでいるコーヒーを農民が大変な思いで生産していることが分かった。コーヒーという一つのことからいろいろなことに考えをめぐらせることができる素晴らしさを感じた。

ワークショップ「コーヒーカップの向こう側」とは身近なコーヒーを例に、コーヒー栽培を通して、生産者の流通の仕組みや途上国の経済的、社会的格差など基本的な仕組みを学び、私たちにできることを考えていくという参加型のワークショップ

わずか3時間半の短い時間でしたが、内容がぎっしり詰まった盛りだくさんの内容に、交流や情報交換はもちろん、参加者のパワーアップにもつながる有意義なセミナーとなりました。

全体を通して参加者の感想から・・・

今までは自分のことにしか関心を持っていなかったが、これからは周りの人たちにも関心を持ち、今の等身大の自分で何ができるかを少しずつ考えて行動に移したいと思った。セミナーも素晴らしかったが、コーヒータイムでのちょっとしたフリートークの中から、これからのユニセフとのかかわり方を考えさせられた。自己紹介とグループでキーワードを決めるフリートークで、他支部の方々とはなしかあえたことからたくさんヒントをいただいた。無理なく続けて活動していくことが大切だと思った。自分の生活がいかに恵まれているかということを考えてながら生活し、ユニセフの活動をする上で人との出会いを大切にしたいと思いました。末吉先生の「人の心の中に平和の砦を築かなければならない」というお話が心に残った。スタディツアーの報告、国際人権法の講義、ワークショップ、交流会と、盛りだくさんの内容が満載のあつという間の3時間半。地域は違ってもこれからもつながっていききたい、広げていきたいという思いがあふれました。

各支部紹介 (2008年7月1日)	【設立年】	【登録ボランティア数】
大阪支部	2001年	178人
奈良県支部	2001年	30人
兵庫県支部	2002年	90人
岡山県支部	1988年	150人
広島県支部	2006年	59人
愛媛県支部	2007年	20人
香川県支部	2004年	32人

広がるネットワーク

「夏の親子教室」 を振り返って

Unies 家崎 敦



今回のワークショップにおける進行役は、私にとってまさに初めての経験でした。テーマが「水」ということで、水に関して特別知識のなかった私は上手く進行できるかどうか不安でしたが、ボランティアのみなさんとユニズのメンバーがその不安を取り除いてくれました。どんなワークショップをすれば、子どもたちが飽きず、楽しめるか悩んでいましたが、みんなでアイデアや意見を持ち寄ることで、最終的に活動的な楽しいものになりました。例えば、きな粉を水に溶かして、あたたかぬりや砂混じりの水のように見せかけ、実際に飲んでみせるといった活動は子どもたちを大いに驚かせました。私だけでは決して思いつきません。「三人寄れば文殊の知恵」とはまさにこの事です。その甲斐あって、子どもたちは真剣に話を聞き、積極的に取り組んでくれました。本当にうれしかったです。



「水」のワークショップを通して、私が子どもたちに理解してほしいことは、自分たちの生活を構成している「当たり前」の物事の大切さです。発展途上国の同世代の子どもたちが家族の生活を助けるための水汲みなどで、学校へ行けないという現実を知れば、自然と、きれいな水が飲めることや学校へ行けることの価値を認識できます。単に「節水しなさい」と言われるからではなく、アフリカなど現実に水不足で困っている人々の現状の一端を知ること、自ら「水を無駄にしない」という意識が芽生えることを期待しました。

今回のワークショップは時間配分や勉強不足など反省すべき点が多くありましたが、私にとって大変貴重な経験となりました。このような機会を与えてくださったことに深く感謝すると共に、これからもボランティアのみなさんと一緒に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

子どもたちあつまれ!!「夏休みの自由勉強 in 西宮」

県支部ボランティア 石本 愼子



7月26日(土)、西宮コーナー夏休み恒例の「めだかの学校」が西宮市環境学習推進グループの主催で開催されました。めだかの飼育方法を学習した後、プレゼントにももらっためだかを手にして元気いっぱい子どもたちがミニ水族館内を見学し、魚のクイズに挑戦、ユニセフコーナーにもたくさんの子どもたちが遊びに来ました。

紙芝居、クイズ、パズル、折り紙、水がめ運び体験等。「井戸ができた」の紙芝居ではサンドとマリーになりきったボランティアの熱演に子どもたちは大喜びでした。自分より大きな水がめを抱えて戸

また、夏休みの終わり(8月26日～29日)の地雷レプリカの展示には、子どもから大人まで50人余りが見に来ました。「なに?」「なんで?」と真剣な表情で次から次へと質問してくる子、呼び込みをして強引に誘った人、「これが地雷?へえ～?」と反応はいろいろでした。

子どもたちには「係の人がいる時は触っていないよ」と言うと、「わあーおもしろい!」「これはどうするの?」と興味しんしんでびっくりした様子が印象的でした。男性や子どもたちが関心を示し、沢山の質問があり一人ひとりに説明が出来、会話が広がっていくのをとても嬉しく思いました。あるお母さんは「夏休みの終わりに自由勉強が出来て良かった」と喜んでいました。

参加者と私たちボランティアがいっしょに楽しめるこれらの活動を、チームのみんなと続けていきたいと思っています。



惑っている子どもたち、クイズやパズルに親子で挑戦して、子どもに助けを求めているお母さんの姿もあり、とても和やかな雰囲気でした。

コープこうべ平和のつどいに参加

(7/27・29・31)

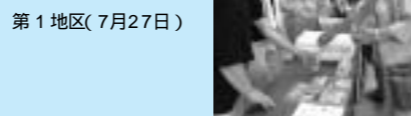
コープこうべの各地区で取り組んでいる「平和のつどい」に参加し、ユニセフ製品の頒布活動などを行いました。第1地区では、陶山京子さんがユニセフフィリピンスタディツアーの報告後、地球のステージ「ありがとうの物語」を上映。第4・第6地区では日本ユニセフ協会兵庫県支部竹本成徳会長が、自らの被爆体験をもとに講演を行いました。たくさんの親子が訪れ、ユニセフの活動を広く知ってもらうとともに、家族で平和について考える良い機会となりました。



第6地区(7月31日)



第4地区(7月29日)



第1地区(7月27日)

第8回「模擬国連会議関西大会」にユニセフも協力

「模擬国連」は、参加者一人ひとりが世界各国の大使となり、実際の国連会議で扱われているような問題を話し合うことによって、国連会議を再現し、問題の解決策を探ろうとするディベートです。8月に開催された関西大会会場の神戸国際会議場ロビーで、ユニセフ写真展『EYE SEE』を行い、ひろくユニセフ活動を紹介しました。



「地球のステージ4」～果てない回帰～を開催

(8/16)

紛争地や被災地で緊急医療と心のケアに携わる医師の桑山紀彦さんが、そこで感じた命の重みを映像と音楽で語り伝えるライブステージが、この夏もコープこうべ生活文化センター2階ホールで開催されました。「ジャワ島中部震災救援篇」「終わらない貧困篇」や初めて自分自身を振り返り語られた「日本一周篇」など。公演後、兵庫県生協連主催のピースアクション2008にも参加、神戸市立科学技術高校生3名とのトークにも参加いただきました。

澤良世さん写真展開催「私の出逢ったアフリカ」

(8/12～24)

昨年9月に、澤良世さん(元ユニセフ東京事務所広報官)にシエラレオネの厳しい現実と未来に向かう力について印象深い講演をいただいて約一年。

コープこうべ生活文化センター1階ロビーでの今回の写真展では、澤さんがユニセフ在任中に訪れたアフリカ諸国の実情が心に残ります。エチオピア、スーダン、モリタニア、ウガンダ、リベリア、ソマリランド(ソマリア北西部)、シエラレオネ、コンゴ民主共和国。写真に写る国々の名前を羅列しただけでアフリカ諸国が抱える内戦の歴史が伝わってくるようです。厳しい環境の中でも笑いながら明るく生活する人々の姿に、来場者からは「みんな目が輝いて生き生きしている」などの声が寄せられました。



募金ありがとうございました



7月24日、神戸市立葺合高校のボランティアグループ「すぎな会」のみなさんが、アフリカの子どもたちへと校門前で募金活動(7月17日～18日)をし、ユニセフに持参いただきました。



神戸市立葺合高校1年6組のみなさんが、文化祭で来校された方や全校生に、アフリカへの支援を呼びかけ、7月28日、支部へ届けていただきました。



NPOアイナックのトップチーム「レオネッサ」と日テレベレーザによる「なでしこリーグ」の試合が、三木防災公園で行われました。会場ではチャリティオリジナル弁当や来場者へユニセフへの協力を呼びかけ、中国大地震緊急募金としていただきました(9月7日)。

ボランティア募集

世界の幼い子どもたちの命を守る活動や基礎教育を広める活動を、あなたも応援してみませんか? 兵庫県支部では、ユニセフの紹介・啓蒙活動や募金活動などを、交流を楽しみながら進めています。他にチームに分かれての活動もあります。興味のある方はぜひ事務局までお問い合わせください。

学習チーム...ユニセフについての出前学習会の講師活動

カードチーム...カードなどのユニセフ製品の頒布活動や管理

事務局チーム...支部事務局をサポートする事務所内の活動

広報チーム...「Wish」の作成やその他広報ツールの作成

Unies...学生など若者が中心の活動

学習会 イベント参加 カード頒布

事務局運営 広報

「いっしょに活動しませんか?」

県支部ボランティア 田中伸子

ユニセフカードとギフト
秋・冬号2008



カードチームは日本ユニセフ協会のカードとギフトについて、様々なサポートをしているチームです。主な活動は、4つです。

発注(カード・はがき・グッズを日本ユニセフ協会のカード事業部に注文します)ラベル付け(届いたカードなどに値札用のラベルを付けて、県支部に展示・保管します)

出庫(展示場所合わせてカードなどをそろえ、展示場所に発送します。展示が終わった後に、売れた金額とカードなどの数を確認します)

在庫確認(1カ月ごとに県支部在庫のユニセフ製品の数を合わせておきます)いつも事務局チームの皆さんに手助けして

もらいながらの活動です。ユニセフ・カードやギフト製品の定価の50%が現地活動資金となって役に立てられます。そんなカード・はがき・グッズを、できるだけたくさんの方々に手に取っていただくのが、カードチームの願いです。

作業は、毎回2時間程度で、不定期に活動しています。ちょっとの時間ならお手伝い出来るという方、またイベント会場などに出向いてカード頒布ができる方を募集中。ぜひ、仲間に加わってください。

ボランティア チーム紹介 カードチーム



お申し込み・お問い合わせは兵庫県支部まで ☎ 078-435-1605 FAX 078-451-9830

お・知・ら・せ

第30回『ユニセフ Hand in Hand』

とき 12月23日(火・祝)
11:00 ~ 13:00(予定)

ところ 姫路、加古川、垂水、名谷、元町、三宮
住吉、西宮、伊丹、宝塚(予定)

あなたもボランティアとして参加しませんか

ユニセフでは、毎年12月23日を『ハンド・イン・ハンド募金』(街頭募金活動の日)とし、広くみなさんに募金のお願いをしています。1979年の国際児童年に始まり今年で30回目を迎える恒例のキャンペーンです。当日ボランティアとしてご協力いただける方を募集しています。お気軽にお問い合わせください。

当日は現地集合、解散になります。

場所や詳細についてはお問い合わせください。



テーマ
守りたい。
子どもたちの命、
アフリカの未来

“UNITE FOR CHILDREN UNITE AGAINST AIDS”

ユニセフパネル展「子どもとエイズ世界キャンペーン」

2005年10月に始まったユニセフの世界キャンペーンの一環として、アグネス・チャンユニセフ大使がHIV有病率世界第3位のレントを訪問。子どもたちに及ぼしている深刻な影響と現状、支援の取り組みなどをお伝えします。

とき 2009年12月22日(月) ~ 25日(木) 入場無料
10:00 ~ 17:00(22日は12:00 ~)

ところ 加古川市民ギャラリー(JR加古川駅構内)

学習会「人身売買と子どもたちの現状」

とき 2009年1月17日(土) 13:30 ~ 15:00

ところ コープこうべ生活文化センター

講師 森田明彦さん

参加無料 要予約

森田明彦さんプロフィール 外務省、国連開発計画、(株)イトヨーカ堂、(財)日本ユニセフ協会、長崎ウエスレヤン大学を経て、東京工業大学特任教授(国際人権論)。08年9月から国際NGO、Save the Children Japan。

子ども買春やポルノ、人身売買……。国境を越えた犯罪や脅威から世界の子どもたちを守るためには、どんなことが求められているのか、現状を知る中で、私たち一人ひとりが自分の問題として、今こそ、考えることが必要では? 講師に、元日本ユニセフ協会広報室長の森田明彦さんをお迎えし、子どもを取り巻く現状を中心に、わかりやすくお話いただきます。知ることこそ、はじめる一歩。あなたも参加しませんか。

予告

兵庫県支部設立7周年記念

「第7回 ユニセフのつどい」開催 参加無料

とき 2009年3月7日(土) ところ コープこうべ生活文化センター 2階ホール
いっしょに運営しませんか? ボランティアスタッフ募集中! ※お気軽にお問い合わせください。

パネル展「ユニセフと水」~安全な水を世界の子どもたちに~

とき 2009年3月3日(火) ~ 12日(木)
ところ コープこうべ生活文化センター 1階ロビー

募金や会員など、 あなたができる方法で ご協力ください

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします

口座番号:00190-5-31000

加入者名:(財)日本ユニセフ協会

通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会員によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも

1口 5,000円

学生会員...18歳以上の学生

1口 2,000円

団体会員...団体、法人、企業

1口 100,000円

申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願い

中国大地震緊急募金

郵便振替:00190-5-31000

通信欄に「中国大地震 K1-280兵庫」と記入

ミャンマー・サイクロン緊急募金

郵便振替:00190-5-31000

通信欄に「ミャンマー・サイクロン K1-280兵庫」と記入

スーダン緊急募金

郵便振替:00190-5-31000

通信欄に「スーダン緊急募金 K1-280兵庫」と記入

アフリカ緊急募金

郵便振替:00190-5-31000

通信欄に「アフリカ緊急募金 K1-280兵庫」と記入

自然災害緊急募金

郵便振替:00190-5-31000

通信欄に「自然災害 K1-280兵庫」と記入

人道危機緊急募金

郵便振替:00190-5-31000

通信欄に「人道危機緊急募金 K1-280兵庫」と記入

【共通】

送金手数料は免除されます。

口座名義:財団法人日本ユニセフ協会

募金はゆうちょ銀行指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

あ と が き

ホームページ <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

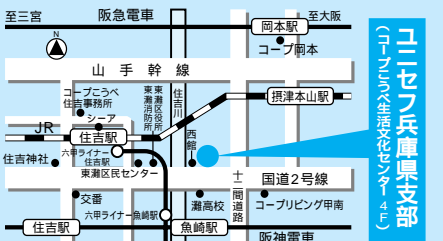
子どもたちに伝えたいことは~出会い、出逢い...人と関わって生まれてくる気持ち。厳しい現実を笑って未来に向かう力は、人々の瞳の輝きは、そこから生まれるのではないかと思います。「人を変えるものは人である」...最近心に残る言葉です。(K)

Wish Vol.25号(2008年秋・冬号)

ユニセフ兵庫ニュース

2008年(平成20年)12月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時~16時)

案内図 JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分



ユニセフ兵庫支部
コープこうべ生活文化センター4F